

日本医療検査科学会第53回大会関係者の皆様

謹啓 仲秋の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2021年10月8日(金)–10日(土)の3日にわたり、パシフィコ横浜において日本医療検査科学会第53回大会を開催致しました。ご支援いただきました学会員の皆様、協力企業様ならびに本学会に関連する方々にお礼申し上げます。本学会が二年ぶりにJACLaS EXPO 2021と同時に現地開催できましたことに安堵しております。感染対策を徹底し、安全・安心な学会運営を目指しました。指定・一般演題合わせて192題、学術集会には1,515名、JACLaS EXPO 2021の来場者は3,654名と例年よりはやや少ない参加者ではありましたが、コロナ禍の中での開催ですので、やむを得ないと考えております。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今回も現地開催を見送るべきではないかとのご意見もありました。和田理事長、萱場前理事長をはじめとする学会役員の方々、JACLaS EXPO 2021の関連の皆様から力強いご支持ならびにご助言をいただき、何とか開催することができました。心より感謝申し上げます。

本学会の総合テーマは「日本医療検査科学会の未来を創る—技術革新と人材育成—」としました。サブテーマとして、1. 新技術や人工知能(AI)の活用に基づく臨床検査、2. 検査の品質確保のための産学連携、3. 学際化・国際化の推進、4. 学会で活躍する人材の育成をあげました。

加えて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関するご講演やシンポジウムも企画しました。with/after コロナ時代における医療体制を構築する時期になっています。臨床検査は、医療を支えるものであり、本学会の役割はきわめて大きく、将来像や展望を考える良い機会となりました。JACLaS10周年記念講演会も開催することができました。国際交流委員会のシンポジウムで、海外の先生方にリモートでご講演いただきましたし、中国装備学会との共催シンポジウムも開催いたしました。本学会の重要な課題である国際化に微力ではございますが、貢献できたものと存じます。

来年の第54回大会は、大阪大学 日高 洋 大会長のもと神戸で開催されます。本学会のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、お礼のご挨拶といたします。

謹白

日本医療検査科学会第53回大会
大会長 柳原 克紀